



仏法領

ぶつぽうりょう

第82号

発行：真宗大谷派
 念信寺
 〒824-0202
 福岡県京都郡みやこ町犀川上高屋761
 ☎ 0930-42-0329
 Fax 0930-42-0502
 ホームページ
 nenshinji.org

コロナウイルス
聞いただけで、こわい。

マスク着用、手指消毒、人と距離を保つ。

新しい生活様式にも慣れてきた。

再び、流行させない様に自分の出来る事をやっつけていこう。

家族を守るために。

地域を守るためにも。

(大迫光浩 写真・文)



昨年の来てみてギャラリー

コロナ収束後の生活

今回はコロナの蔓延が一段落した後について考えてみました。

現代の私たちは西に帰る世界、平等に帰ってゆく世界を失っています。月忌などでお参りすると教えられることがあります。よくお参りする仏壇はすこし線香の煙でいぶされて重厚な感じになります。そこに生きる重みのようなものを感じます。大切な人を亡くすということは、この世での生きがいをなくすことです。そこから先に見えるくる世界、もっと大きな世界があるという気づきのようなものを感じます。

認知症研究の第一人者の医師が認知症になったというテレビをやっていました。先生が言うには、見える景色は変わらない。余分なものが剥がれ落ちてゆくと。

理性で考える世界は最後は余分なものになるのかもしれない。不安はあるけど、(不安だという)気づきはなくなる。神様はよくしてくれているとも。

先生の静かに受けとめながら生きる姿に感動を覚えました。人間は生や死を自然に受けとめられるように出来ているのかもしれない。

死んだらおしまいだと右往左往している、都合でしか生きてない自分は何者だろうか？ そんな問い直しからコロナ後が始まればいいと思います。



昨年のギャラリーテント